

令和 6 年 7 月 2 9 日

令和 5 年度 特別の教育課程の実施状況等について

岡山県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
真庭市立中和小学校	真庭市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
真庭市立中和小学校	https://www.city.maniwa.lg.jp/site/chuhka-es/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
真庭市立中和小学校	https://www.city.maniwa.lg.jp/site/chuhka-es/	https://www.city.maniwa.lg.jp/site/chuhka-es/

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

教育課程特例校としての説明パンフレットを作成し、全保護者に配布すると同時に、地域には全戸配布をした。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、すべての学年において、『中和地区をいきいき元気にすること』を目的とした「中和いきいき学習科」を設置し、探究活動をスパイラルで行うことによって、発達段階に応じた子どもにつけたい力を育成するとともに、ふるさとを愛する心を養うものである。実際、本特例を実施している中和小学校においては、評価アンケートの「児童が地域に興味をもって意欲的に調べている」という項目において、保護者・学校関係者・教職員ともに100%の肯定的回答が得られている。児童の学びの姿勢は、より意欲的に、より主体的になっている。さらに、地域について理解を深めることによって、また地域の方々と交流することによって、地域に対する愛着が確実に芽生えたとともに、地域への貢献意欲が高まってきている。

課題としては、低学年において、生活科の学習内容と「中和いきいき学習科」の内容を丁寧に精査しながら、授業時間数の調整を行わなければならないことである。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している中和小学校においては、低・中・高学年のそれぞれで系統的に付けたい力を明確にし、探究的な学習を行うことによって、発達段階に応じた力を付けることができている。それらが積み上げられて、高学年では、地域のために自分たちができることを考え、ともによりよく生きる力を育むことにつながっている。

課題としては、児童数の減少である。今年度、低学年学級は児童2名のクラスである。今後も児童数・学級数の減少が見込まれる中で、「中和いきいき学習科」が持続可能な教科となり、その意義を発揮し続けるようにすることが課題である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえて、「中和いきいき学習科」の内容をしっかりと吟味する必要がある。(1)の課題については、今年度、低学年の余裕時数を活用するなどの工夫をしながら進めている。(2)の課題については、地域人材を活用する仕組みや教職員と地域人材との協働体制づくり、児童と地域との交流の場の確保等について、さらに充実・発展させていくための枠組みづくりが必要であると考えます。